作業連絡用通信システム[親局]

（総務省技術基準適合品）

取扱説明書

アルインコの作業連絡用通信システムをお買い上げいただきましてありがとうございます。
本製品は、陸上移動業務無線局（作業連絡用）通信システムの親局です。
本製品の機能を充分に発揮させ、効果的にご使用いただくため、この取扱説明書をご使用前に最後までお読みください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。ご使用中の不明な点や不具合が生じたとき、お役に立ちます。

※　本製品は、DJ−M1（子機：弊社製品）と併せてご使用いただくことで、通信できるシステム機器です。
※　他社製の同等品とは通話できません。

◆◆◆ 安全上のご注意 ◆◆◆

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用前にお読みください。
この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損失を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示	表示の意味
⚠ 危険	この表示を無視して、誤った取扱いをすると人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

図記号	表示の意味
⚠	△記号は、注意(危険・警告含む)を促す内容があることを告げるものです。
⃠	○記号は、行為の禁止であることを告げるものです。
❗	左の記号は、行為を強制したり、指示する内容を告げるものです。

本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因にて通信などの機会を失ったために生じた損害等の純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 警告

■使用環境・条件

内部から漏れた液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に傷害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

この製品を人命救助などの目的で使用して、万一、故障・誤動作などが原因で人命が失われることがあっても、製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

この製品を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用した場合、いかなる誤動作・不具合が生じても製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

電子機器（特に医療機器）の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となります。

航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺、病院内では絶対に使用しないでください（電源も入れないで下さい）。運行の安全や無線局の運用、 放送の受信に支障をきたしたり、医療機器が故障・誤動作する原因となります。

この製品どうし、または他の無線機とともに至近距離で複数台使用しないで下さい。お互いの影響により故障・誤動作・不具合の原因となります。

指定以外のオプションや他社のアクセサリー製品を接続しないでください。
故障の原因となります。

この製品を使用できるのは日本国内のみです。
国外では使用できません。
This product is permitted for use in Japan only.

■本体の取扱いについて

この製品は調整済みです。分解・改造して使用しないでください。
そのような行為は違法であり、火災、感電、故障の原因となります。

布や布団で覆ったりしないでください。熱がこもり、ケースが変形したり、火災の原因となります。直射日光を避けて風通しの良い状態でご使用ください。

■AC アダプターの取扱いについて

指定以外の電圧で使用しないでください。火災、感電、故障の原因となります。

AC アダプターの AC プラグをタコ足配線しないでください。
加熱、発火の原因となります。

ぬれた手で AC アダプターに触れたり、抜き差ししないでください。
感電の原因となります。

AC アダプターを AC コンセントに確実に差し込んでください。
AC アダプターの刃に金具などが触れると、火災、感電、故障の原因となります。

AC アダプターの刃に、ほこりが付着したまま使用しないでください。
ショートや加熱により火災、感電、故障の原因となります。

■異常時の処置について

以下の場合は、すぐに AC アダプターのプラグを本体からはずし、AC アダプターを AC コンセントから抜いてください。異常な状態のままで使用すると、火災、感電、故障の原因となります。修理はお買い上げの販売店、または当社サービス窓口にご連絡下さい。

お客様による修理は、危険ですから絶対におやめください。

- ◆ 異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするとき
- ◆ 落としたり、ケースが破損したりしたとき
- ◆ 内部に水や異物が入ったとき
- ◆ AC アダプターのコードが傷んだとき
  （芯線の露出や断線など）

雷が鳴り出したら、安全のため AC アダプターを AC コンセントから抜いて、ご使用をお控えください。

■保守・点検

本体や AC アダプターのケースは開けないでください。けが、感電、故障の原因となります。内部の点検・修理はお買い上げの販売店、または当社サービスセンターにご依頼ください。

ケースを開けて改造、変更することは法律で禁止されています。

⚠ 注意

■使用環境・条件

テレビやラジオの近くで使用しないください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。

湿度の高い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。
火災、感電、故障の原因となることがあります。

ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。
内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。

調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気があたる場所には置かないでください。
火災、感電、故障の原因となることがあります。

■本体の取扱いについて

長時間ご使用にならないときは、安全のため AC アダプターを AC コンセントから抜いてください。

アンテナを誤って目にささらないようにしてください。

アンテナを持って本体を振り回したり、投げたりしないでください。
けがや故障、破損の原因となります。

■保守・点検

お手入れの際は、安全のため必ず AC アダプターを AC コンセントから抜いてください。

汚れた場合は、柔らかいきれいな布で乾拭きしてください。
ベンジン、シンナー、アルコール、洗剤などを使うと外装や文字が変質するおそれがあります。

◆◆◆ 使用前のご注意 ◆◆◆

■使用場所によっては思わぬ電波障害を引き起こすことがあります。
次のような場所では使用しないでください。
（航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺、病院内など）

■本機は防水構造ではありませんので屋内に設置してください。
また設置場所は、高温、多湿、直射日光の当たるところ、粉じんの多いところは
避けてください。

■本機を分解、改造して使用することは、法律でかたく禁じられています。

■海外では法律や周波数の割り当てが異なるため使用できません。
This product is permitted for use in Japan only.

■スイッチ設定後は、必ずスイッチカバーを取り付けてください。水分や異物の混入は、
保証修理の対象外となります。

◆◆◆ 目 次 ◆◆◆

1　付属品

開梱しましたら、付属品を確認してください。

☐AC アダプター
☐電源延長ケーブル（ 5m ）
☐ゴム足　4 個
☐木ねじ　2 本
☐取扱説明書（本書）
☐保証書

注意　保証書に購入の日付が記載されていないときは、レシートを保証書と一緒に保管してください。ご購入日が証明できる書類が無いと保証サービスは無効となりますのでご注意ください。

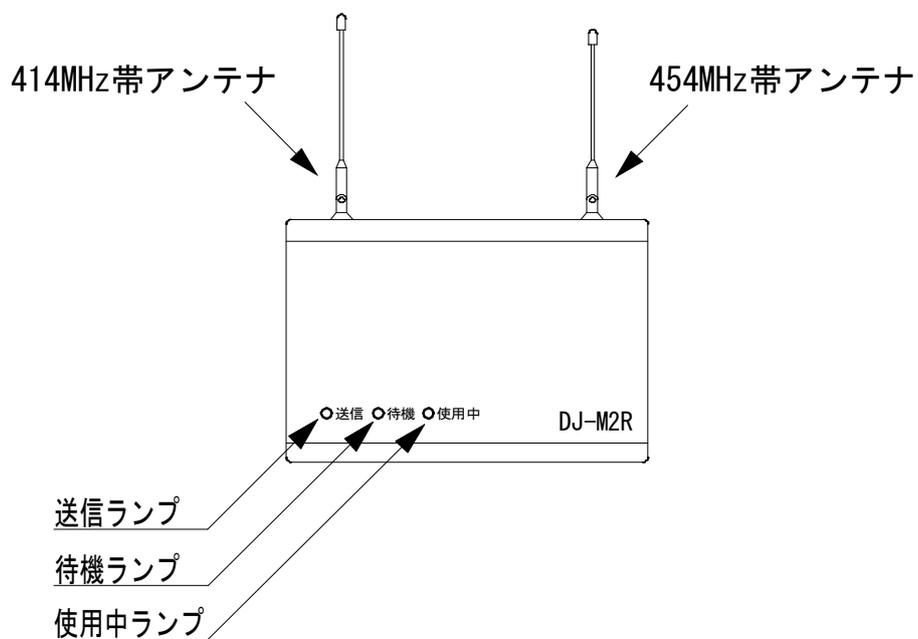
2　機能と特長

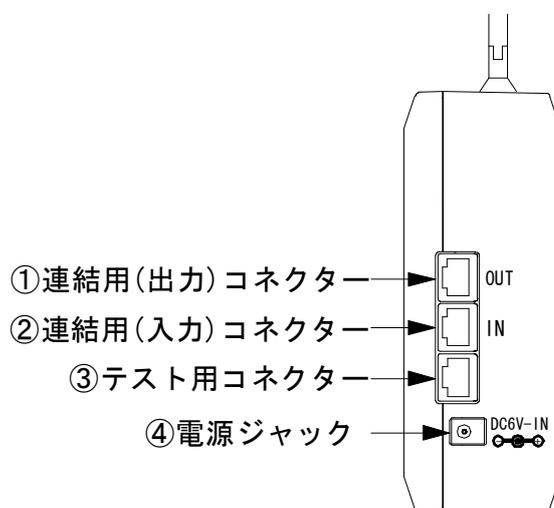
■免許および申請手続きは一切不要です。
■DJ-M1(子機：弊社製品)と併せてご使用いただくことで、最大 4 名で同時通話ができます。
■本機を 2 台連結することにより最大 8 名で同時通話ができます。
■音声通話の明瞭度を上げるコンパンダー機能を搭載しています。
■本機の電源は、家庭用 AC コンセント（AC アダプター：付属品）から供給することができます。
■長さ 5m の電源延長ケーブルを付属しています。

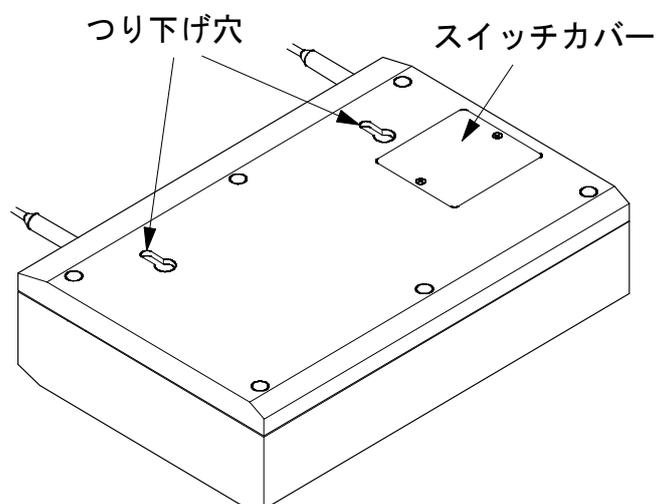
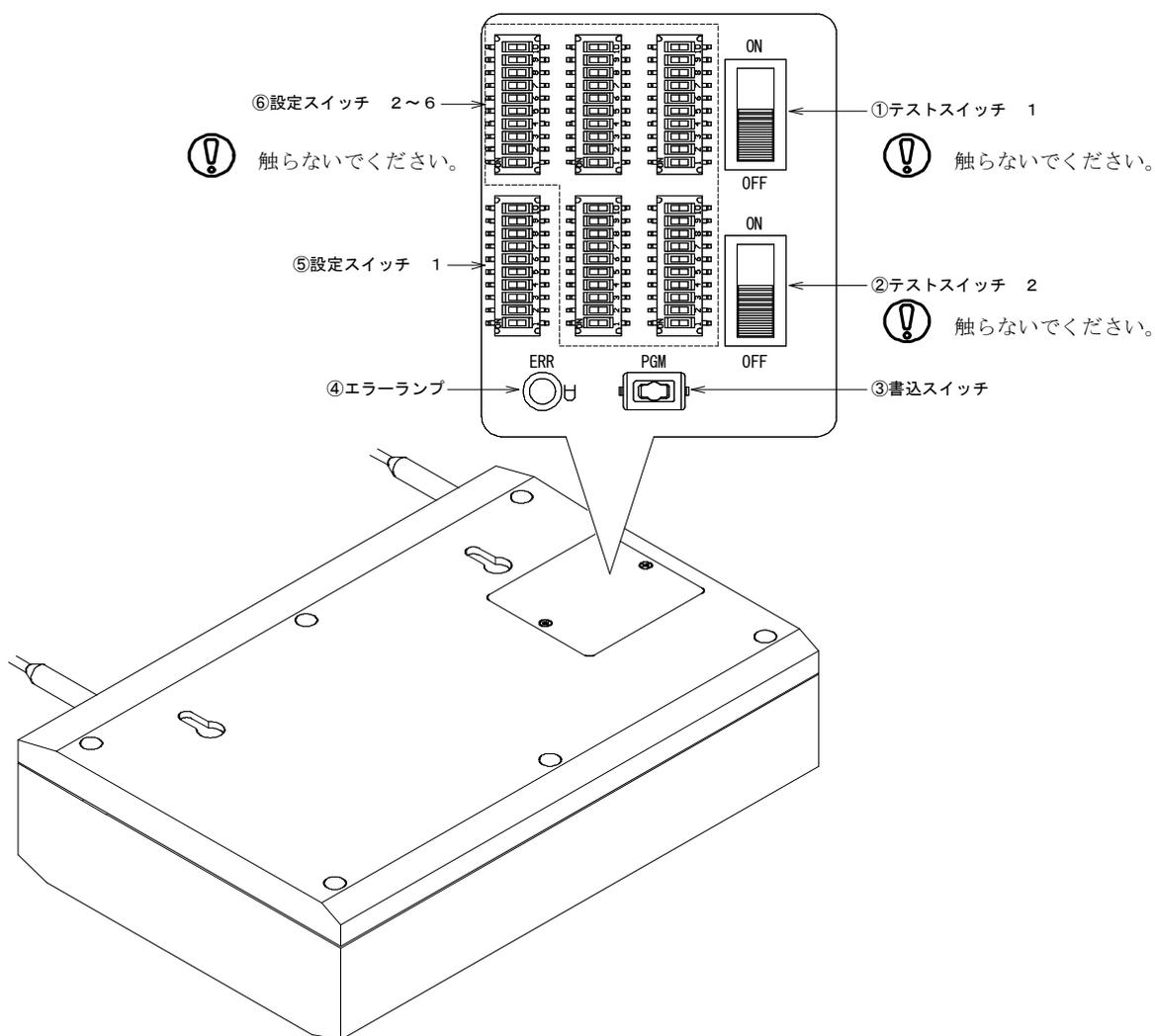
3　各部の名称とはたらき

本機の各部の名称とはたらきを説明します。

■前面部

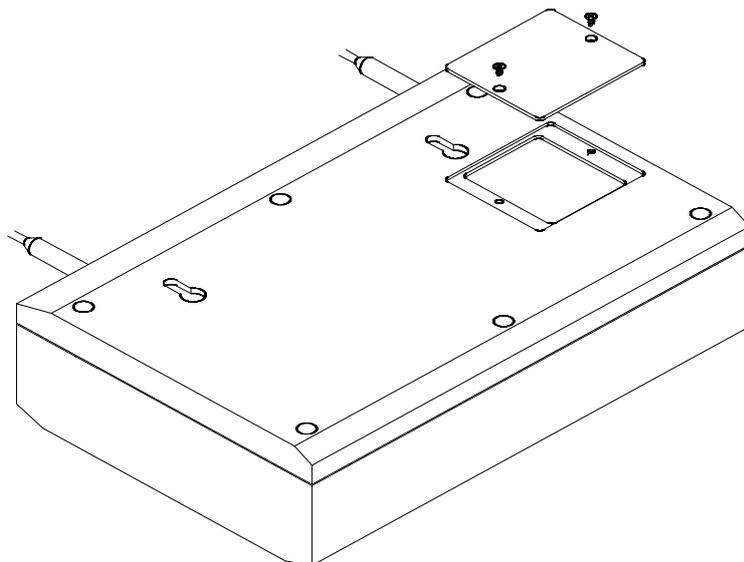
注意　アンテナは外れないようになっています。
無理に引き抜いたりしないでください。
アンテナは折り曲げることができますが、
設置状況によっては通話エリアが狭く
なることがあります。

	名称	はたらき
①	414MHz 帯アンテナ	414MHz 帯の受信アンテナです。 折り曲げることができます。
②	454MHz 帯アンテナ	454MHz 帯の送信アンテナです。 折り曲げることができます。
③	送信ランプ	送信時に点灯します。
④	待機ランプ	受信待ち受け時に点灯します。
⑤	使用中ランプ	本機（DJ-M2R）では点灯しません。

■側面部

	名称	はたらき
①	連結用(OUT)コネクター	ケーブルにより DJ-M2R 同士を連結するためのコネクターです。OUT側にケーブルを接続した場合には、連結する DJ-M2R のIN側に接続してください。
②	連結用(IN)コネクター	ケーブルにより DJ-M2R 同士を連結するためのコネクターです。IN側にケーブルを接続した場合には、連結する DJ-M2R のOUT側に接続してください。
③	テスト用コネクター	動作確認用のコネクターです。何も接続しないで下さい。
④	電源ジャック	付属の AC アダプター(EDC-122)を接続します。

■背面部

■設定スイッチ内部（操作部）

	名称	はたらき
①	テストスイッチ1	本機では使用しません。 OFF にして触らないでください。
②	テストスイッチ2	本機では使用しません。 OFF にして触らないでください。
③	書き込みスイッチ	設定変更時に押します。押すと設定が有効になります。
④	エラーランプ	設定書込み時に正常に行われたか確認できます。 運用時、送信中に点灯します。
⑤	設定スイッチ2～6	本機では使用しません。触らないでください。
⑥	設定スイッチ1	チャンネルグループを設定します。

4 スイッチの設定方法

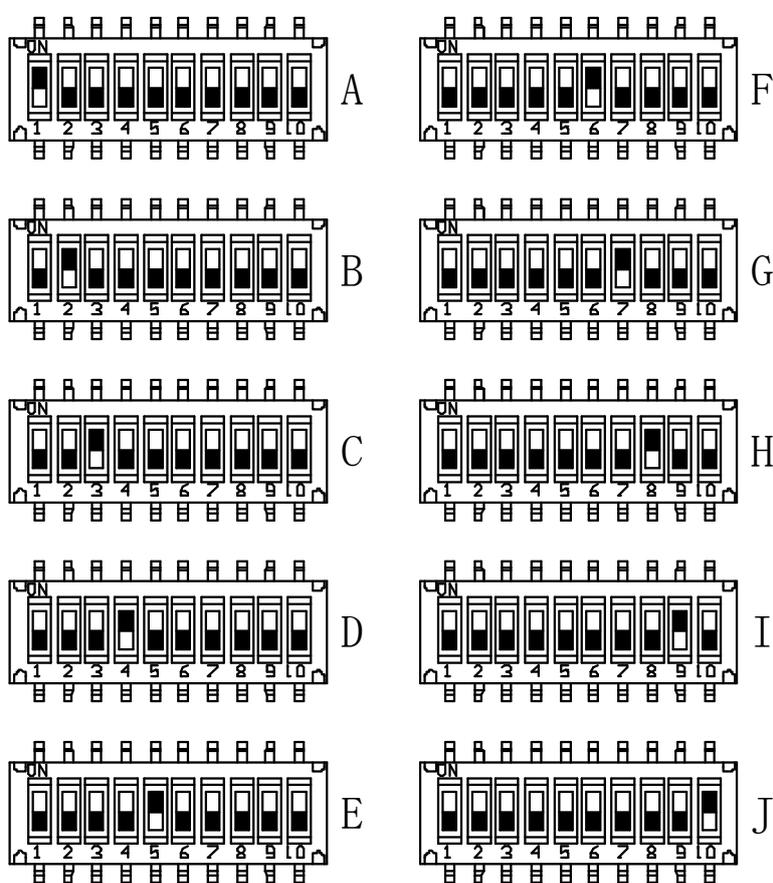
本機の設定には、プラスドライバーが必要です。
本体背面のスイッチカバーを固定しているビスを外し、内部のスイッチにより各種の設定をおこないます。
すべての設定が完了したら、書込みスイッチを押すか、電源を入れ直してください。

メモ　本機には電源スイッチがありません。側面の電源ジャックに付属の AC アダプターのプラグを接続するだけで自動的に電源が入ります。

注意　スイッチの設定後は、必ずスイッチカバーを取り付けてください。
一度設置するとたびたび設定を変更するのは手間になりますので、仮設状態で充分なテストをされることをお勧めします。

■設定スイッチ 1 の設定方法

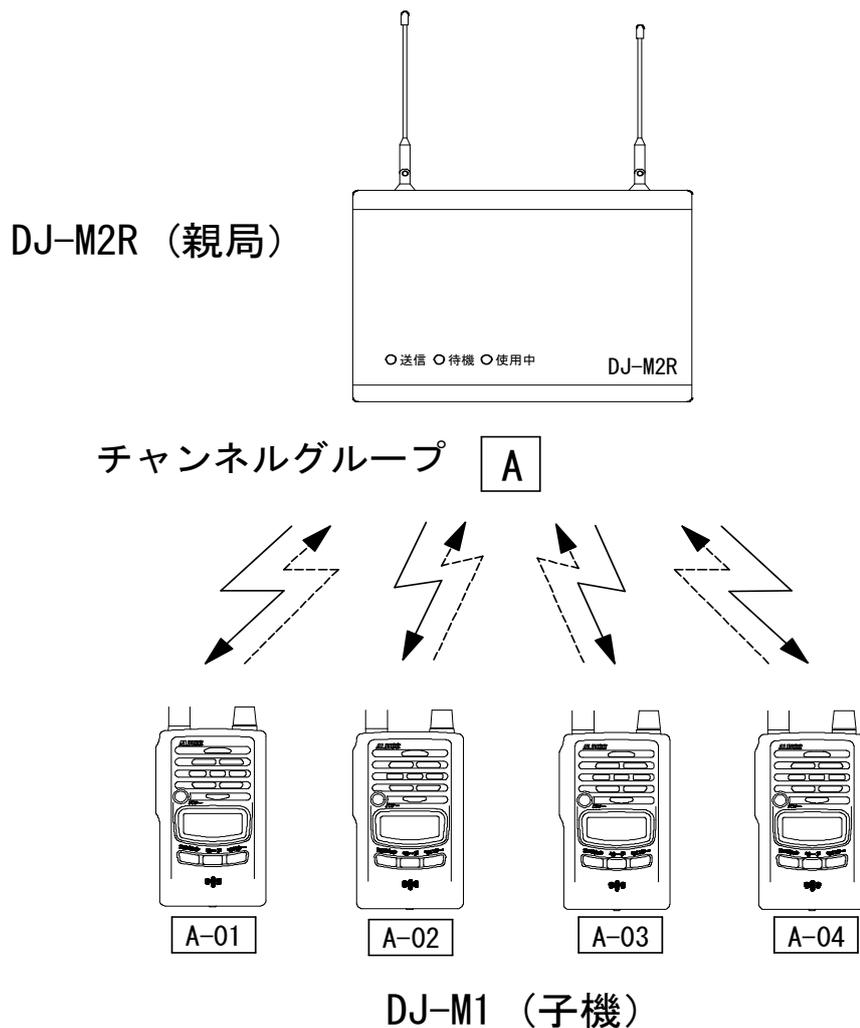
設定スイッチ 1 は、運用するチャンネルグループを設定します。

注意 運用する場合には、親局(本機)と子機(DJ-M1)をすべて同じチャンネルグループに設定してください。
チャンネルグループが設定されていない場合、自動的に A チャンネルグループで動作します。

10 種類のチャンネルグループ（A～J）から1つだけを選んで ON 側にします。

メモ ほかの電波の混信などで、正常に動作しない場合があります。このような場合、チャンネルグループを変更してください。10 種類のチャンネルグループ（A～J）いずれも正常に動作しないときは、販売店または代理店にご相談ください。

５ システム構成について

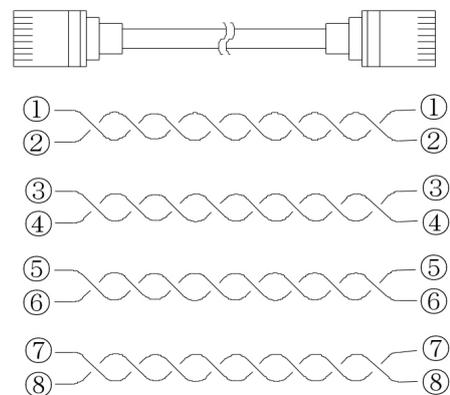
＜標準システム＞

本機(DJ-M2R)を設置することにより、最大 4 名で同時通話できます。
子機として弊社製 DJ-M1 が別途必要です。

注意 ・親局－子機間は電波が届くことを確認の上、設置してください。
・親局子機はすべて同じチャンネルグループに設定します。
・子機番号は重複しないように設定します。

<連結システム >

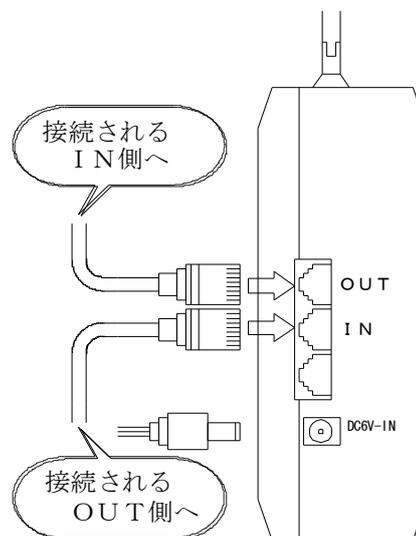
本機(DJ−M2R)を 2 台連結することにより、最大 8 名で同時通話できます。
子機として弊社製 DJ−M1 が別途必要です。

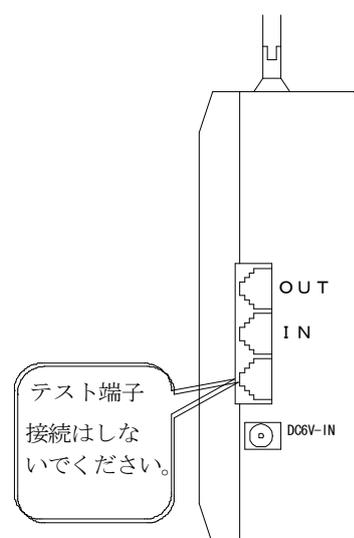
□ 接続に使用するケーブル

連結接続を行う場合には接続ケーブルが必要です。
ケーブルはパソコンのネットワークに使用される市販の LAN ケーブルを使用します。
LAN ケーブルは必ずフル結線のストレートケーブルでツイストペアのものをご使用ください。

> **注意** クロスケーブルなどストレートケーブル以外のケーブルを接続すると故障の原因となりますので絶対にお使いにならないでください。

> 注意　連結システムでご使用になる場合、同じチャンネルグループでご使用にならないでください。正常に動作いたしません。
> また、設置する際は本機(DJ−M2R)同士を３ｍ以上離してください。

□ ケーブルの接続

連結接続を行う場合に本体横のコネクターに
LAN ケーブルを差し込みます。
OUT側に接続したケーブルの一端は接続
されるDJ-M2RのIN側に、IN側に接続した
ケーブルの一端は接続されるDJ-M2Rの
OUT側に、どちらか片側のみ接続します。

注意　OUT側とOUT側またはIN側とIN側同士を接続すると正常な動作はできません。
IN側またはOUT側とパソコン等他の機器とは絶対に接続しないでください。
本機または接続された機器が故障することがあります。
誤接続により生じた損害は一切保証しかねますのでご了承ください。

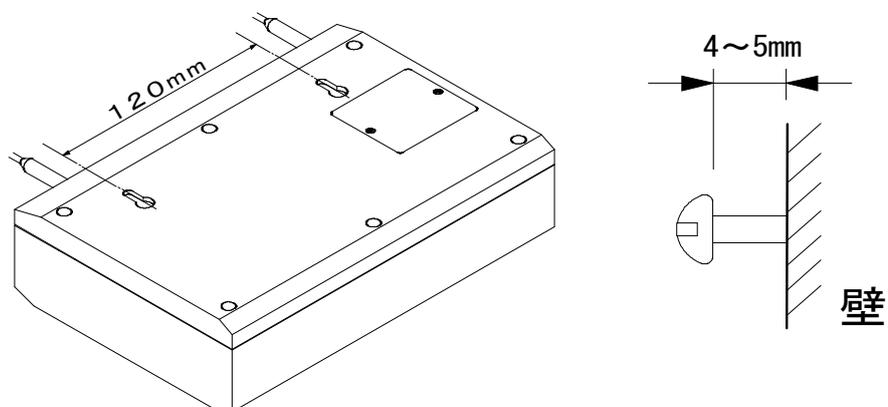
注意　接続コネクターの電源ジャックに
近いコネクターはテスト端子です。
この端子には何も接続しないで
ください。

６ 設 置

本機を設置する場所は、なるべく見通しのよい高い所に設置してください。

□壁面に取り付ける場合

本機の背面には、つり下げ用の穴があいています。

付属の木ねじを 120mm の間隔で壁に取り付けてください。その際、壁とねじの間に隙間を 4～5mm 程度保ち、本機をつり下げてください。

※本機を取り付け後、落下の危険がないことを必ず確認してください。

メモ 付属のビスはベニヤなど木の壁用です。その他の壁については別途市販の専用ビスをご用意ください。

□卓上に置く場合

本機の底面に付属のゴム足 4 個を貼り付けてください。

※倒れないことを必ず確認してください。

落下による破損は保証の対象になりませんので充分ご注意ください。

7 付 録

■故障とお考えになる前に

本機が故障かな？と思ったら、まずこちらをお読みください。

症状	原因	処置
電源が入らない （なにも表示しない）	電源が接続されていない	AC アダプターを家庭用コンセントに差し込み、本体の電源ジャックにAC アダプターのプラグを挿入してください。
通話できない	チャンネルグループが違う	本機、子機をすべて同じチャンネルグループに合わせてください。(P.15)
	親局－子機間の距離が離れすぎている	電波が届くことを確認の上、使用してください。
	ほかの電波が混信している	チャンネルグループを変更してください。（本機、子機すべて）

※子機についての操作方法は、DJ-M1 の取扱説明書をご覧ください。

→ アフターサービスや各製品についての最新情報などは、アルインコホームページをご覧ください。
アルインコホームページ http://www.alinco.co.jp/

■定格　DJ-M2R

送受信周波数	413.70000 ～ 414.14375MHz （受信） 454.05000 ～ 454.19375MHz （送信）
電　波　形　式	F3E (FM)
通　信　方　式	複信方式
送　信　出　力	1mW
受　信　方　式	ダブルスーパーヘテロダイン
受　信　感　度	-7dBμ以下
中　間　周　波　数	1st IF 21.7MHz 2nd IF 450kHz
消　費　電　流	最大 400mA
入　力　電　圧	DC6V（AC アダプター使用）
動作温度範囲	-10℃～+50℃
寸　　　　法	200 (W) × 140 (H) × 50 (D)（突起物除く）
重　　　　量	約 900g

仕様 ・定格は予告無く変更する場合があります。

■チャンネルグループ周波数表

グループ番号	親機送信周波数(MHz)	子機番号	子機送信周波数(MHz)
A	454.0500	Ａ－０１	413.7000
		Ａ－０２	413.8000
		Ａ－０３	413.9125
		Ａ－０４	414.0375
B	454.0625	Ｂ－０１	413.7125
		Ｂ－０２	413.8125
		Ｂ－０３	413.9250
		Ｂ－０４	414.0500
C	454.0750	Ｃ－０１	413.7250
		Ｃ－０２	413.8250
		Ｃ－０３	413.9375
		Ｃ－０４	414.0625
D	454.0875	Ｄ－０１	413.7325
		Ｄ－０２	413.8325
		Ｄ－０３	413.9500
		Ｄ－０４	414.0750
E	454.1000	Ｅ－０１	413.7500
		Ｅ－０２	413.8500
		Ｅ－０３	413.9625
		Ｅ－０４	414.0875
F	454.1125	Ｆ－０１	413.7625
		Ｆ－０２	413.8625
		Ｆ－０３	413.9750
		Ｆ－０４	414.1000
G	454.1250	Ｇ－０１	413.7750
		Ｇ－０２	413.8750
		Ｇ－０３	413.9875
		Ｇ－０４	414.1125
H	454.1375	Ｈ－０１	413.7875
		Ｈ－０２	413.8875
		Ｈ－０３	414.0000
		Ｈ－０４	414.1250

グループ番号	親機送信周波数(MHz)	子機番号	子機送信周波数(MHz)
Ｉ	454.1500	Ｉ－０１	413.8000
		Ｉ－０２	413.8125
		Ｉ－０３	413.8375
		Ｉ－０４	413.8875
Ｊ	454.1625	Ｊ－０１	413.8125
		Ｊ－０２	413.8250
		Ｊ－０３	413.8500
		Ｊ－０４	413.9000